

柏南ロータリークラブ 会報

2025-2026 片岡達生年度



よいことのために
手を取り合おう



第46代会長 片岡 達生
幹事 井畑 和士 齊藤 洋子

第2042回 2026年3月31日 (火)

会長挨拶

皆様、こんばんは。3月も最後の日となりました。本日の夜間例会へのご出席、誠にありがとうございます。まずはじめに、先日開催されましたはぐくみの杜プロジェクトのしめくり「虹色の会」のご報告とお礼を申し上げます。当日は施設の子どもたちにも大変喜んでもらうことができ、無事に終えることができました。皆様の温かいサポートに心より感謝申し上げます。また、この片岡年度において「はぐくみの杜プロジェクト」に対し、日頃より多大なるご支援とご協力をいただいておりますこと、この場をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。



さて、その「はぐくみの杜プロジェクト」につきまして、一つお知らせがございます。来週、4月7日の例会におきまして、本プロジェクトの完了報告をさせていただく予定です。皆様からいただいたご協力がどのような形に結実したのか、会計報告を含めてご報告いたしますので、ぜひご参加いただければと思います。

そして本日の卓話は、はぐくみの杜と我々柏南RCを力強く結びつけてくださった立役者、黒滝義之会員にご登壇いただきます。歯科医としての専門的なお立場から、そして何より、常に現場の最前線に立つ「現場目線での奉仕」についてお話しくださるとのことです。私自身、黒滝会員の熱い思いと貴重なお話を伺えるのを大変楽しみにしております。なお、例会後には会場を移して、井畑会長エレクトによる独演会「井畑年度の展望を大いに語る」が予定されています。こちら也非常に楽しみな企画となっております。それでは、本日もよろしくお願いたします。

卓話 黒滝 義之会員

子どもの口の健康格差が、単なる歯みがき習慣や知識不足ではなく、家庭環境・経済状況・親の学歴・生活の余裕といった「健康の社会的決定要因 (SDH)」によって生じていることがデータから示されています。平均的には子どもの虫歯は大きく減少しましたが、その裏では、虫歯ゼロの子が増える一方で、重い未処置歯を抱える子どもが少数ながら取り残される二極化が進んでいます。



特に、定時制高校や支援が必要な家庭では受診率や口腔状態に差が見られます。原因は「デンタルIQ」の低さではなく、貧困・ひとり親・長時間労働などによる“生活の余白 (Life Bandwidth)”の不足にあります。そのため、従来の「教える・待つ医療」だけでは限界があり、現場へ出向くアウトリーチや、頑張らなくても続けやすいナッジ (行動を自然に促す工夫) が有効とされます。実践例として、適切な歯みがき量が一目でわかる刻印入り歯ブラシの配布が紹介され、子どもや保護者の行動変容にもつながっています。結論として、平均値の裏を見ること、生活背景を理解すること、医療と地域が連携し続けることが、子どもたちの未来を守る鍵だと思います。

我孫子ロータリークラブ創立60周年記念式典

3月24日、ハート柏迎賓館にて開催された「我孫子ロータリークラブ創立60周年記念式典・祝賀会」に、当クラブより片岡会長、井畑和士、齊藤洋子の両幹事の3名で参加しました。

第一部の記念式典では、我孫子RCの柳田実会長よりご挨拶がありました。そのお言葉の端々から柳田会長の明るく温かいお人柄が真っ直ぐに伝わってくる、大変素晴らしいスピーチでした。また、海外の姉妹クラブからのご来賓もお見えになっており、60周年の節目にふさわしい国際色豊かで華やかな雰囲気になっていました。



第二部の祝賀会では、三味線とバイオリンによる素晴らしい記念演奏会も催され、和やかで心温まる時間が流れました。そして祝賀会の最後には、ロータリーでおなじみの「手に手つないで」を来場者全員で大きな輪になって合唱し、ロータリアンの絆を確かめました。細やかなおもてなしの随所に、まさに「人格者揃い」と呼ぶにふさわしい我孫子RCの皆様の素晴らしい品格が感じられました。我孫子市への桜の記念樹贈呈といった地域貢献の姿勢にも深く感銘を受けました。我孫子ロータリークラブの皆様のこれまでの歩みに心より敬意を表しますとともに、今後のさらなるご発展を祈念申し上げます。

奉仕活動報告 (はぐくみの杜プロジェクト 4回目)

【はぐくみの杜かしわプロジェクト第4弾「虹色の会」】

3月27日、キャンパスプラザ会員会館「レストランまんりょう」にて、はぐくみの杜かしわプロジェクトの集大成となる第4弾「虹色の会2026」が開催されました。本行事は、子どもと大人が一年の成長を振り返り、感謝を伝え合う大切な節目です。

冒頭、内村施設長からのご挨拶に続き、子どもたちから心のこもった手書きメッセージの色紙を手渡しいただき、参加した猫田岳治、小林義和、森秀樹、小林亘、竹村隆一郎の各会員も大変感激いたしました。



また今回は、当クラブの奉仕活動に関心をお寄せいただいた柏西RCより、湯浅千晶会長、住田みゆき奉仕プロジェクト委員長、水野晋治次年度社会奉仕委員長にもご参加いただき、クラブの垣根を越えて子どもたちの姿を見守る素晴らしい機会となりました。

ステージでは、「はぐかしバンド」の演奏やダンスなど多彩な出し物が披露されました。その熱演に「我々も何かやらねば」と奮い立った猫田岳治親睦委員長が、年季の入った「フニクリフニクラ」を披露し、会場は大いに盛り上がりました。はぐくみの杜では「自由な表現が心を癒やし、生きる力に繋がる」との理念から音楽などの表現活動を重視し、全ホームの子どもとスタッフが一堂に会して食事をする大切さも説いています。しかし、バンド演奏などができ、かつ大人数で飲食可能な会場の確保が長年の課題でした。

今回、柏南RCがそのニーズに応じて会場と食事をサポートしたことで、子どもたちの自己表現と貴重な団欒の場を創出することができました。会の終わりには、全員から「ありがとうございました！」と元気なお礼の言葉をもらい、ロータリアン一同、温かい感動とともに会場を後にしました。

